

学校新聞

平成28年度
「薫風」第1号
4月22日(金)

薫風

～緑新たに風も薫れり～



発行元 東京都立大崎高等学校全日制課程 〒142-0042 品川区豊町2-1-7

変化・成長の大崎 新たな前進！

校長 白井 克昌

平成28年度も、桜咲く希望あふれる入学式を4月7日に挙行し、新入生278名を迎え、いよいよスタートしました。今一度、2、3年生の皆さんも原点に帰り、入学当時の少しの不安と大きな希望に満ちた新鮮な気持ちを思い出し、大崎生としての誇りを胸に、目標の実現に向けて颯爽とスタートしましょう。

1 今後の大崎高校の学校経営の方向性

大崎高校の生徒をさらに変化・成長させていくためには、身だしなみ指導を徹底し、私学に負けない生活指導により規範意識を醸成することにあります。また、基礎・基本を重視した分かりやすい学習指導、道徳心の育成と実践力の涵養、文化・スポーツ活動や学校行事を活性化することが大切です。この基盤に立ち、新1学年より導入した「特進クラス」を牽引力とした学力向上・進学指導を展開し、難関大学への進学実績の向上（出口）と入試成績を向上（入口）させて、大崎高校を飛躍させていきます。

教育は人なりとはよく言われることですが、本校の教職員一同は、生徒にとって最善の教育をしていける教職員として、都立高校で一番仲の良い教職員集団を目指して結束力を高めていきます。直接生徒を指導する教職員の結束力が弱ければ教育効果は生まれないと考えています。これまで以上に、教職員間の結束力を高めて、生徒のためには労を厭わない「生徒第一」主義で様々な取組を進めてまいります。そして、生徒を心身ともに鍛え、社会で自信と誇りをもって活躍できる生徒に育てていきます。

2 平成28年度の主な取組

- ①特進クラスの設置による進学指導の強化
- ②文化・スポーツ等特別推薦（バスケットボール男子）を実施
- ③基礎学力の強化、補習・講習で学力強化
- ④計画的・組織的なキャリア教育の実施
- ⑤学力向上推進計画の実現、朝学習の実施
- ⑥大学探求等による大学進学の実現
- ⑦読書活動の推進
- ⑧オーストラリア海外体験（語学研修）
- ⑨電子辞書活用、学習の仕方・学び方講演
- ⑩ビジネス手帳による自己管理能力の育成
- ⑪心と体の強化に向けた強歩遠足の実施
- ⑫日本の伝統文化を活用した礼作法（茶道）
- ⑬大学進学「土曜講習」「特進講座」の実施
- ⑭オリンピック・パラリンピック教育の推進



4月7日の入学式の壇上生け花の中に桜がありました。その桜を1年G組の生徒が線路沿いに植えてくれました。

楽しく、優しく、力強く育つことを願います。

28年度の初めにあたり、生徒に以下の内容の話をさせていただきましたので、ご一読ください。

- 1 今日から平成28年度、そして新学期が始まります。この1年間を皆さんに有意義に、充実した学校生活を送ってもらいたいと思います。

私が人生55年の経験から皆さんに助言できる有意義な学校生活とは、価値のある学校生活だということです。では充実した学校生活とは、やりがいのある生活で過ごせてよかったといえる学校生活だと思います。

つまり両者を合わせて「大崎高校に入学してよかった、毎日が満足できる学校生活だ、卒業してよかった。」と言ってもらえる学校にすることだと思います。

- 2 皆さんに3本の木を紹介します。

「やる木」・「げん木」・「こん木」の三本です。

- (1) 1本目は「やる木」です。

新しいことに取り組み事は、不安もありなかなか難しいことかもしれません。しかし、失敗を恐れては何も生み出せません。電球を発明したエジソンは失敗の繰り返しから電球を発明しました。皆さんも失敗を恐れずに「挑戦する気持ち」を持ってください。

- (2) 2本目は「げん木」

つまり元気です。いろいろなことに挑戦するにあたっては不安なこともあるでしょう。そのようなときに大切なのは、元気です。元気は「やるき」の源です。

- (3) 3本目は「こん木」

「継続は力なり」1回や2回の失敗を恐れずに挑戦しましょう。「やるき」で根気よく、継続することが力になります。

これらを3本の木を計画的に実行できれば、有意義な・充実した学校生活を送れると思います。そして、そういった学校生活を送ったことが「自信」につながり、やがて「誇り」になるでしょう。

- (4) 具体的に説明すると、「やる気」で目標を設定、「げん気」に実行、そして「こん気」で、根気よく続けることです。

- 3 しかし残念なことに、昨年はみなさんの中に学校生活のルールや社会生活のルールを守れない人がいたり、人に迷惑をかける行為が多数発生し、特別な指導をしなければならなくなりました。中には学校を去らざるを得ない人もいました。

大崎高校の校則の大前提はすなわち「迷惑をかけない」ことです。

- 4 そして皆さんが「大崎高校に入学してよかった、毎日満足できる学校生活だった、卒業してよかった」といえる大崎高校にしてください。

先輩の浜崎さんが作ってくれた応援歌にこうあります。「我らが大崎、誇りを胸に！」

- 5 さて、新たに着任式で5人の新しい先生方をお迎えし、入学式では278人の新入生を迎えます。そしていよいよ皆さんは新しい学校生活が始まります。

春休み中に開放されて気分を一新し、頭髪・服装・装飾品の約束を守り身だしなみを整え、禁止事項を再度確認して新学年を迎えましょう。

昨年度末に保護者宛の手紙を出しましたが、身だしなみ指導には段階指導が入ります。

そして、明日からといわず、今日から早速「3本の木」を実行しましょう。

進路実現に向け前向きに取り組もう

進路部 鈴木 勝雄

1年生は厳しかった受験を乗り越えて、多くの期待を胸に大崎生としてスタートを切ったと思います。何事も最初が肝心です。しっかりと目標を持って学校生活に取り組みましょう。高校生活の中心はなんといっても日々の学習活動です。部活動などの時間を考えると、1日24時間の限られた時間の中で、すべての教科の予習や復習、課題をこなしていくのはとても無理です。そこで、例えば重要な科目（英語、数学、国語など）は家庭学習でもしっかりと取り組み、他の教科は土日などにまとめて復習するというやり方もあると思います。各自いろいろと工夫してやるのが大切です。また得意科目を作ることも大切です。それによってその教科は当然ですが、他の教科も多少余裕をもって取り組むことができるようになり、良い結果に繋がります。

2年生は、そろそろ進路を見据えた取り組みが必要になります。大学進学を考えている場合、基礎学力は大丈夫ですか。もし十分でないと感じているのなら、今すぐに基礎固めに取り掛かりましょう。土日や夏休みにまとめてなどと考えるはいませんか。日々継続してやるのが何より大切で、身に付き力になっていきます。

3年生はいよいよ自己実現に向けた取り組みの本番です。進路に迷っている人はいませんか。できるだけ早く進路目標を決めて取り掛かれるようにしましょう。大学進学の生徒は試験日まで、日々の積み重ねを大切に頑張るだけです。

最後に日々の授業を大切にしましょう。授業がすべての基礎になります。

学習・受検は団体戦

教務部

- 今回のテーマ
- 1、自主的な学習の重要性を認識する。→ あきらめない心を作る。
 - 2、学習仲間をつくる。→ 支え合い夢を実現させる。

高校とは自分で学習をするところです。自分で日夜学習を続けながら、「自分は将来何がしたいのか」「自分の好きなことは何なのか」「自分の研究したい学問はなんだろう」など自分の進路を見つけ、その目標に向かって日々努力をしていく。それが高校生です。

小中学校の時、将来の夢は大きく広がっていました。しかし、いつの間にか、世間を知ったつもりになり、現実の厳しさを知ったつもりになり、自分の能力を知っているつもりになり、夢を語るなくなっていますか？違います、自ら努力することをやめてしまうから、夢が夢のままになるのです。今この現実を変えられるのは、自分自身の「あきらめない心」しかありません。

さて、まずは受験についてふれます。昨年春号で、「受験するためには学校の勉強以外に、3年間で3000時間の勉強時間が必要不可欠だ」と書きました。受験ではさまざまな基本的に必要な知識があり、それらを暗記・理解するためには3000時間は必要だということでした。具体的には1年生は毎日2時間、2年生は毎日3時間、3年生は毎日4時間自宅学習する必要があります。計算すると、 $2 \times 365 = 730$ 、 $3 \times 365 = 1095$ 、 $4 \times 365 = 1460$ 、合計3285となります。「え～、そんなの無理」と思った人、それが、夢を夢として終わらせてしまう原因なのです。あなたの「あきらめない心」を再度呼び覚ましましょう。

次に自宅学習についてふれます。自宅学習はなかなか習慣とするのが難しく、かなり苦労します。なんども挑戦してくじけた人も多くいると思われます。

そのため具体的な提案を一つしたいと思います。それは「勉強仲間をつくる」ということ。得意な科目を教えてあげる仲間、苦手な科目を教えてもらう仲間、弱音を吐いてしまう心を励ましてくれる仲間、好敵手(ライバル)、これら仲間を支え合い、団体戦で大きな壁をこえる努力をします。それが、高校時代です。

4月です。新学期です。今年こそ頑張ってみましょう。「あきらめない」「くじけない」「自分から変わろうと努力する」「強い自分になる」学習に対して、ポジティブに攻めの姿勢でのぞむ。そんな大崎高校生になってほしいと希望します。1年生、2年生、3年生、頑張ってください。

「朝の読書活動」を毎朝 10 分間実施します！

副校長 小林

昨年度から朝の読書活動を 8 : 25 ~ 8 : 35 の 10 分間の時間を確保して、開始しています。
年度当初の各学年集会で、読書の意義について、下記の内容を生徒に話しましたので、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。朝のたったの 10 分間の読書の継続で、知らないうちに、すごい力が付きますので、この 1 年間、しっかりと取り組んでみてください。

言葉の獲得のためには、読書が一番の方法です。

読書は、人間が人間足らしめる上で、最も基礎的・基本的な部分となります。読書をしない人間がいくら勉強をしたとしても、土台がないところに家は立たない。わたしたちは言葉を通して生きているのです。

読書は、すべての学習の基本です。脳科学者の茂木健一郎氏も「いちばん脳が鍛えられるのは本を読んでいる時」と言っています。アメリカでも電子書籍の売上げが減り、紙の本へ読者が戻る傾向が見られると伝えています。紙の本には、電源がいらない。書き込んだり線を引いたり、簡単に自分用に改良できる。紙やインクの匂い、美しい装丁などと共に本の中身を記憶できる。

読書によって、すべての教科の学力向上につながります。

数学にしろ、科学にしろ、教科書に書いてある語彙が理解できなければ、その問題を解くこともできない。自身の学力向上のため、進路実現を可能にするためとの思いで、朝の読書活動に取り組んでください。

一冊の本は、偉大な教師とめぐり合ったのと同じです。

読書は「人間だけができる特権」であり、いかなる動物も読書はできない。

自分の人生は 1 回きりだが、読書によって、何百、何千のほかの人生に触れることができるし、過去の歴史の賢者とも語り合いができる。ソクラテスやユゴーとも語り合うことができます。

読書には、人生の花があり、川があり、道があり、旅があります。楽しみがあり、怒りがあり、大いなる感情の海があり、知性の船があり、夢があり、ドラマがあり、世界があるのです。

そして、大事なことは、どんな「喜び」でも、それなりの練習や努力が必要です。読書もそれなりの努力、挑戦があつて初めて「喜び」がわかってくるのです。

いったん、その喜びを知った人は強い。「本が友だち」になった人は強い。

読書は「習慣づける」ことが大切です。読書が習慣になった人は、電車の中でも、寝る前でも、トイレの中でも読むものです。

読書が続けている人とそうでない人の差は、1 年で、想像以上に開くものです。

良い本との出会いは知識を深め、感性を高め、視野を広げ、そして世界を広げることにつながります。

自分自身の夢を見つけ実現するために、朝の読書活動に取り組んでいきましょう。

